解剖訓蒙

五官論

十九

慶應義塾大學醫學部富士川文庫
203
X
k10-2
F 17
カ-22

491.1
Ka-3
17
慶應義塾大學醫學部北里圖書
No.2403
慶應義塾大学医学部北里記念 47年7月10日
富士川文庫
2463
慶應義塾大學醫學部北里圖書

ナシュス

解剖訓蒙巻之十九

米利堅　解剖學教頭約瑟列第著
日本　文部少助教中泉　正譯

五官論

鼻

鼻(ノーズ)ハ嗅官ノ特異ナル具ニシテ、他ノ機能即チ呼吸及ヒ發聲ニ關ルハ其主タル所ニ非ス」爰ニ其覧便ニ供センカ為ニ、額下ヨリ上唇ニ達セル、即チ顔ノ中央ニ現在スル、三稜隆起部ヲ、鼻ト稱シ、其他部ハ別ニ鼻腔ト稱シテ、之ヲ辨説ス

甲 ラヂキス
乙 ドンシュム
丙 アペキス

鼻ハ、人種、男女、及ヒ各人ニ由テ、其形状ヲ稍ヤ異ニシ、且ツ大小ヲ同フセサルヲ以テ、顔面中其冣モ徴スヘキ、一箇ノ容貌ヲ呈ス。其上部ハ、鼻骨ト、上腭骨ノ鼻突起トヲ、基礎ト為シ、固定シテ、運動セス。下部ハ運動シ、軟骨ト靱強ナル纖維膜トヲ以テ保持ス。外部ハ、諸筋ヲ具ヘ、皮膚ニテ被包シ、内部ハ、鼻腔粘膜ノ展延ヲ以テ貼裏ス、

額下ニ接スル處、即チ上端ハ、所謂ル鼻根（甲）（ルート）ニシテ、兩眼ノ中間ニ於ケル隆準ハ鼻梁（ブリッヂ）ナリ、其次部鼻背（乙）（ベッキ）ハ、漸ニ延進シテ降リ、遂ニ鼻尖（丙）（チップ）

甲 アレー
全 ピンナ
乙 アペルチュール、ナシ、エキステリ子
丙 コロムナ、ナシー

及ヒ鼻側（サイデス）ニ達シ、其傍部ハ鼻翼（甲）（ウヰングス）即チ凸隆ヲ以テ終ル

下部ニ於テ、一對ノ下向スル楕圓孔アリ、是レ鼻孔（ノストリルス）即チ前鼻竅（乙）（アンテリ、オルナーレス）ニシテ、厚キ起線即チ鼻柱（丙）（コロム、ヲヴ、ゼ、ノース）ヲ以テ分界ス

皮膚ハ、上方ニテハ、薄フシテ、皮下ノ部位上ニ、容易ニ運動シ、下方ニ至レハ、甚タ厚フシテ、軟骨及ヒ其餘ノ皮下ノ造構物ニ密着ス。亦タ他部ノ皮膚ニ於ケル如ク、汗腺、皮脂腺、及ヒ毛ヲ具ヘ、而テ皮脂腺ハ、下部殊ニ鼻翼上ノ溝中ニ於テ著大ニ

シテ數多ナリ、益シ毛ハ、極メテ微細ナリ、然レモ鼻孔縁内ニ於テハ、盛ニ周壁ヨリ發生シ、殆ト塵埃ノ入ルヲ防キ、恰モ篩毛ノ用ヲ為セリ

諸筋ハ、既ニ筋論ノ顔面條下ニ記セシ所ノ三稜鼻筋、縮鼻筋、張鼻筋、啓鼻筋、鼻擧筋、及ヒ啓鼻洸筋是ナリ

諸軟骨ハ鼻ノ下部ニ於テ、緊要ノ支柱ヲ為ス者ニシテ、前鼻孔ノ前部ニ位ス其軟骨ハ、中隔軟骨、一對ノ側軟骨及ヒ數箇ノ副軟骨ヨリス、即チ左ニ掲示ス

甲 セプチユム、カルチレヂ子ユム

乙 ラテラレスシユペリオリス

中隔軟骨(甲)カルチレーゴ、オブゼ、ハルチシユン ハ、篩骨ノ鼻板ト、鋤骨トノ中間ニ於ケル、有角空隙ヲ充塞ス此軟骨ハ、兩鼻骨ノ中間ニ沿テ前進シ、爾後直チニ上側軟骨ト連續シ、下部ニ至テ、鼻柱ヲ助成ス其式、不等側方形ニシテ、大約鼻中隔ノ三分一ヲ成ス

上側軟骨(乙)スッペル、ラテラル、カルチレーヂス ハ、前骨ノ前縁ニ連續シ左右一對共ニ、各々外方ニ反展シテ、鼻骨ノ縁ト、上腭骨ノ鼻突起ニ從テ附着ス此軟骨ハ、三角形ニシテ、靭強ナル纖維膜ヲ以テ、鼻尖ト、鼻翼ニ結合ス

（甲）ラテラリス、インペリオリス

下側軟骨（甲）ロウエル、ラテラル、カルチレーヂハ、鼻尖ノ基礎ヲ造爲シ、鼻柱ト、鼻翼ヲ助成ス。此軟骨ハ、一對共ニ、各彎曲セシ三角形ノ延長板ニシテ、其尖頂ハ、鼻尖ニ向ヒ、空底ハ、後方ニ向フ。其板ノ内部ハ、細狹ニシテ、鼻柱ニ從テ展延シ、緩鬆ナル纖維組織ヲ以テ、對偶軟骨ノ内部ト、中隔軟骨ノ下縁ニ附着ス。外部ハ、楕圓ニシテ、外後方ニ向ヒ、鼻尖ト鼻翼ノ上部ニ延長ス。其上縁ト、後端ハ、鞏強ナル纖維膜ヲ以テ前骨ト、上腭骨ノ鼻突起ノ縁ニ附着ス。此軟骨、纖維組織ヲ以テ、互ニ附着スル中間ニ於テ、鼻尖ニ當リ、稜角ナル小裂ヲ留ム、是レ屢、皮膚上ニ陷凹ヲ顯ハス者ナリ

（甲）カルチラギニス、セサモイデー

副軟骨（甲）アッセッソリー、カルチレーヂハ、前骨ノ外後端ノ後ロニ於テ、纖維膜中ニ包在スル、二三ノ小片ト、間、同骨ノ上方ニ在ル小結節ト、及ヒ中隔軟骨ノ后下縁ノ兩側ニ在ル小片トヨリ成ルナリ

以上ノ軟骨ハ、純軟骨ニシテ、近傍ノ諸骨膜ニ連續スル軟骨膜中ニ被包セラル。而テ中隔軟骨ハ、上側軟骨ト、鋤骨ト、篩骨ノ鼻板ト、ヲ連合スル搆造ヲナス者ナリ

甲 アレー、ナシ

乙 ホッサ、ナサリ

甲鼻翼（ウヰングス、オブ、ゼ、ノース）ハ、二箇ノ凸隆ニシテ、其外部ハ、鼻孔ヲ限界シ、所謂溝ヲ以テ、鼻側ト分界ス。是レ皮膚ノ厚襞ヨリ形成シ、脂肪組織ニ、筋纖維ヲ交ユル、靱強ナル結締組織ヲ含ミ、以テ鼻筋ノ附着部ト為ル者ナリ

鼻軟骨及ヒ鼻翼ハ鼻ノ下部ニ賦與スルニ撓屈性ヲ以テシ、而テ恒ニ鼻孔ヲ開置シテ、其縮張ヲ自由ニス

鼻腔

乙鼻腔（ナサル、カヴヰチース）ハ、二箇アリ、其式、細狭ニ延張セシ複雜ノ間隙ニシテ、前部ハ、前鼻竅ヲ以テ、躰外ニ通シ、后部ハ、后鼻竅ニ由テ、咽頭ニ連ル。而テ鼻蓋（ルーフ）鼻牀（フロール）アリ、甲ハ、鼻骨ト、篩骨ノ篩板ト、蝴蝶骨ノ躰ヨリ成リ、乙ハ、上腭骨ノ口蓋突起ト、口蓋骨ヨリ成ル、

鼻腔ハ、甲鼻中隔（ナサル、パルチシヨン）ヲ以テ、左右ニ分隔シ、外壁（オートル、ヲール）ハ、貝殻突起（トルビ子ーテッド、プロセス）貝殻骨（トルビ子ーテッド、ボーン）ヲ保持シ、其中間ニ、三箇ノ鼻道（ミーチユシス）アリ、以テ蝴蝶洞（スへノイダル、サイノシス）篩骨洞（エトモイダル、サイノシス）額洞（フロンタル、サイノシス）及ヒ上腭洞（マキシラレー、サイノシ

甲 ナサル、セプチュム

スニ通ス

此部ヲ圍擁シテ造成スル諸骨ノ方法ハ、既ニ頭顱骨ノ條下ニ載セリ

前鼻竅ハ、鼻腔ノ外端ニ於テ、鼻牀ノ水準ヨリ、稍ヤ下ニ開キテ、下方ニ向ヒ、后鼻竅ハ、后下端ニ占位シテ、后下方ニ向フ」故ニ鼻腔内ニ空氣ヲ吸引スルヤ其氣流先ツ前鼻竅ニ入リ、次ニ鼻蓋ニ向テ昇リ、次ニ后鼻孔ニ降リ、乃チ恰モ半輪形ヲ画ヒテ通過スルナリ、然レ𪜈貝殻狀突起ノ在ルヲ以テ其氣流ヲ破リ以テ鼻道ヨリ諸洞ニ通セシメテ腔内ニ満面ニ香分子ヲ受クルヲ得セシム」

鼻腔ハ悉ク血管ニ富メル粘膜ニテ貼裏シ、其膜ハ、次下ノ骨膜及ヒ軟骨膜ニ密着シテ、前鼻竅ニ至レハ、漸次ニ皮膚中ニ沈没シ、后鼻竅ニ於テハ咽頭粘膜ニ續キ、而テ涙鼻管ト涙管ヲ以テ、眼ノ結膜ニ連合ス

甲 メンブラナ、ピトイタリア、
仝 メンブラナ、オルハクトリア、

鼻粘膜（甲）（ナサル、ミュコース、メンブレーン）ハ、一般ニ紅色ナリ、然レ𪜈部位ニ由テ、厚薄アリ、且ツ血管ノ多少、及ヒ固有ノ造構ヲ異ニス」乃チ貝殻狀突起ノ上ヘ、殊ニ貝殻狀骨ノ部ニ於テハ、最モ厚ク、血管ニモ冨ミ、且

甲 レジヲ、ヲルフハクトーリヲ

其下縁及ヒ后端ニ於テハ、極メテ厚キ襞ヲ成シ、以テ大ニ腔面ヲ擴張シ、中隔ニ於テハ、厚積稍ヤ減シ、而テ其他部ニ於テハ、隨テ薄ク、諸洞内ニ至ルニ於テハ、甚タ軟弱且ツ透明トナリテ恰モ清膜ノ看ヲ爲ス

鼻粘膜ハ、前鼻竅ニ近ヨレハ、比スルニ乾燥シテ、鱗屑狀内皮ヲ裝ス𬼀其他、嗅神經部ヲ除キ、諸洞ノ者モ、都テ顫毛柱狀内皮ヲ具ヘ、微細ノ葡萄狀腺ヲ含ム此腺ハ、膜ノ最厚部ニ從テ、其數最モ多シ、貝殼狀突起ノ凸面ト、篩骨鼻板ノ面ニ應スル

甲嗅

神經部ヲルフスグーレトレジヨンハ、顫毛ナキ柱狀内皮ヲ具ヘ、單一管狀腺ヲ含メリ

鼻粘膜中、最要ノ動脉ハ、内腭動脉ノ蝴蝶口蓋支ナリ、然レトモ又タ眼動脉ノ篩骨支、内腭動脉ヨリ枝別スル、口蓋下行支、齒動脉ノ諸枝、及ヒ顏面動脉ヨリ枝別スル、上冠狀支、側鼻動脉ノ諸枝別ヲ受ケリ靜脉ハ、動脉ヨリモ大ニシテ多ク、而テ此膜ト骨膜ノ中間ニ於テ靜脉叢ヲ造ル、殊ニ此膜ノ盛發部、即チ貝殼狀突起、貝殼狀骨、及ヒ中隔ノ上部ニ於テ然リトス𬼀而テ蝴蝶口蓋動脉ノ道路

ニ沿進スル、他ノ諸靜脉ニ連合シ、篩骨支ヲ以テ眼靜脉ト通ス、神經ハ、甚タ數多ニシテ、普通知覺神經ト、特異知覺神經ノ二種アリ」甲ハ、蝴蝶口葢神經節ノ鼻支、口葢神經ノ一支、眼神經ヨリ枝別スル、鼻神經ノ内鼻支、及ヒ上齒神經ノ纎維ナリ」乙ハ、即チ嗅神經ニシテ、其左右ノ諸枝、各、二區ノ聚簇ト成リ、篩骨ノ篩眼ヨリ通過シ、一ハ、鼻腔ノ内壁ニ循行シ、一ハ、外壁ニ分布ス、此諸枝、其初ハ、粘膜下ノ諸骨面ノ溝中ニ下リ、后チ粘膜ノ纎維層中ニ穿入ス」而テ内方ノ聚簇ハ、扁平ノ韈ヲ造リ、倒扇狀ヲ爲シテ、側方ニ分散セシ、無數ノ神經纎維ヨリ成ル、然レモ此纎維ハ、篩骨ノ鼻板下ニ於テハ降來スルヲ見ス」外方ノ聚簇ハ、細別シ、數回合吻シテ、神經韈即チ細網狀ヲ爲シ、篩骨ノ具殼狀突起ノ外面ヲ掩フ

甲 ヲキュロス
乙 チュテミナ、ヲキュリ
丙 シュペルシリユム

眼

眼甲（アイ）ハ、眼球（アイポール）ト、其附属乙（アッペーデーヂス）即チ眼球ノ諸筋、眉、涙涕機器、眼瞼、及ヒ其諸筋ヨリ成ル

眉

眉丙（アイブロー）ハ、額ト上眼瞼ノ中間ニ於テ、眉毛線ト、

甲 パルペブラヽ

上眼窩縁ノ上ニ安置スル、弓形ノ隆起ニシテ、容ニ毛ヲ生セル皮膚、皮下結締組織、脂肪組織、眼瞼輪筋ノ一分、及ヒ皺眉筋ヲ以テ造成ス。眉毛ハ勁直扁平尖鋭ニシテ、皮膚ヨリ斜生シ、乃チ内方ヨリ、弓形ニ準テ、外方ニ向ヲ尋常トス

眼瞼

眼瞼(甲)アイリッヅハ、眼窩前ニ位スル一對ノ地平帯ニシテ、眼瞼裂ヲ以テ、上下ニ分界シ、其縁ニ、睫毛ヲ有ス。上眼瞼ハ、下眼瞼ヨリモ、巨大ニシテ、且ツ一個ノ筋、即チ眼瞼擧筋パルペブラル、エレヴヱトルヲ具有シ、運動亦タ自在ナリ

眼瞼裂(甲)パルペプラル、フイツジユール、ノ長サハ、一定セサルカ故ニ、人種ノ差別、及ヒ各人ニ隨ヒ眼ノ大小アリ。其兩端ヲ眼眥(乙)エングル、ヲズゼ、アイト稱ス、其一方ハ外眥(丙)エキステルナル、エングル、ニシテ、鋭角ヲ為シ、一方ハ内眥(丁)インテルナル、エングル、ニシテ、延長シ鈍了ス。裂縁ハ、平直ニシテ、眼ヲ閉ヅレハ、親接シ、恰モ二列ニ睫毛ヲ粧飾セル、一線ノ横裂ノ如ク見ユヘシ

其内眥ヲ造ラントシ、延長シ始ル處、上下ノ兩縁共ニ、稍ヤ隆起スル小乳頭ヲ呈ス、之ヲ涙乳頭(戊)ラリ

甲 フイツジユラ、パルペブラロム
乙 カンジー
丙 エキステルナルカンジス
丁 イントルナルカンジス
戊 パピルラ、テクリマリス

甲 ホンクトムラクリマール
甲 タルシ
全 タルサルカーチレーギ

パピラリマル、ト稱ス、其頂ニ小孔アリ、以テ涙管ノ初端ト通ス、之ヲ涙孔（甲）（ラクリマル、オレフィス）ト稱ス

造構ハ、皮膚、眼瞼輪筋、諸軟骨、數腺、及ヒ結膜ノ一部ヨリ成ル

皮膚ハ、其質菲薄柔軟、半透明ニシテ、皮下脂肪組織ヲ有セス、裂縁ニ至レハ、結膜ニ連合シ、而テ底下ニハ眼瞼輪筋アリテ、薄ク布置シ蒼白色ヲ爲シ特ニ瞬機ニ關與ス

眼瞼軟骨（乙）（パルペブラル、カーチレジス）ハ、眼瞼輪筋ノ裏面ニ亜在スル、二箇ノ纖維軟骨ノ薄片ニシテ眼瞼ニ、形

甲 リガメントムパルペブラール
乙 リガメントムパルペブラール
丙 タルシュスソペリオル

狀ト強剛ヲ賦與ス此軟骨ハ、上者下者共ニ、其遊離縁ハ最モ厚ク而テ内面ニ結膜ヲ容着ス、其眼窩縁ニ於テハ、眼窩ト顔面ヨリ展延スル、骨膜ニ連續ス其内端ハ内眼瞼靱帶（甲）（インテルナル、パルペブラル、リガメント）ト稱スル、纖維樣ノ圓帶ヲ以テ、眼窩ノ内縁ニ附着ス、外端ハ外眼瞼靱帶（乙）（エキステルナル、パルペブラル、リガメント）ト稱スル、骨膜ノ稍ヤ厚變セシ展延部ニ由テ、眼窩ノ近傍縁ニ結合ス

上眼瞼軟骨（丙）（オッペル、パルペブラル、カーチレジー）ハ、下者ヨリモ巨大ニシテ、其式卵圓ヲ竪ニ半斷スルカ如シ、其幅徑

（甲）タルシュス、インフェリオル　（乙）マイボミアン、グランヅ

ハ、中央ニテ大約五線許アリ、上縁即チ凸方ニ、眼瞼擧筋ノ廣キ薄腱ヲ附着ス」（甲）下眼瞼軟骨（ロウエル、パルペブラル、カルチレーヂ）ハ、其幅徑纔ニ一線許ノ帶ニシテ、平行ノ二縁ヲ有ス

（乙）眼瞼腺（パルペブラル、グランヅ）ハ、上下ノ眼瞼ニ、各二十許アリテ、眼瞼軟骨ト、結膜ノ中間ニ位シ、結膜ノ外面ニ透徹シテ、黄色粒狀ノ縱平行脉ヲ呈ス、是レ眼瞼軟骨ノ溝中ニ入ル所ノ脂腺ニシテ、其丈ケハ、溝ノ長サニ準ス」此腺ハ、中央ニ一條ノ洩管ヲ有シ其各側ニ數多ノ梨子狀細囊ヲ列生シテ眼瞼縁ニ開口ス」其分泌ハ、脂油質ニシテ、淚滌ノ眼瞼縁ニ溢出スルヲ防ク者ナリ

（甲）シリヤ

（甲）睫毛（アイラッシス）ハ、皮膚ト結膜ノ着合線ニ沿テ、眼瞼縁ヨリ發生スル、強剛ニシテ彎曲セル短毛ナリ」上眼瞼ニ於テハ、下眼瞼ヨリモ、數多ニシテ且ツ長ク、而テ其彎背ヲ下方ニ向ケ、下眼瞼ニ於テハ、其彎背ヲ、上方ニ向ケリ」又タ睫毛根ニ對偶シ、微細ノ脂腺數多アリ、眼瞼縁ニ沿テ、淡黄色ノ顆粒ヲ呈ハス

眉及ヒ眼瞼ノ諸筋ハ、眼瞼輪筋、皺眉筋、及ヒ眼瞼

皺筋ナリ、既ニ筋論ニ記載ス

結膜

結膜（甲）（ユンギュンクチーバ）ハ、眼瞼ノ裏面ヲ装貼シテ、眼球ノ前部ニ反展スル粘膜ナリ」此膜ハ都テ鱗屑状内皮ヲ具ヘ平等ナレ𪜈、然レ𪜈部位ニ随ヒ他ニ共性質ヲ異ニスル𛀁、即チ左ノ如シ

眼瞼部（乙）（パルペブラル、ポルシュン）ニ於テハ、紅色ニシテ、甚タ血管ニ富ミ、眼瞼軟骨ノ裏面ニ密着シ、而テ微細ノ圓錐形乳頭ヲ有ス」此部ハ、知覺最モ敏捷ナリ

内眥ニ於テハ一簇ノ皮脂腺ヲ被包シ、之ト共ニ

甲 メンブラナ、コンヂュンクチーバ
乙 コンヂョンクチヷ、パルペブラロス

涙涕息肉（甲）（ラクリマル、カロンクル）ヲ造ル」是レ柔軟紅色ノ隆起ニシテ、内眥ノ間隙ニ占充シ、細毛ヲ具テ、常ニ油質物ヲ分泌シ、以テ涙乳頭ヲ浴漬ス

涙涕息肉ノ外側ニ於テハ、半月状襞（乙）（セミリュナト、ホルド）ト稱スル、紅色ノ細キ皺襞ヲ成ス」是レ下等動物ニ於ケル、第三ノ眼瞼即チ瞬膜ノ微育ナル者ナリ」而テ眼瞼ノ底部ニテハ爰ヨリ、鞏角二膜ノ前部ニ反展ス」此反展ノ線中ニ、僅少ノ小葡萄状腺ヲ含メリ

鞏膜部（丙）（スクレロチカル、ポルシュン）ニ於テハ、薄ク透明ニシテ、乳

甲 カロンキュラ、ラクリマリス
乙 プリカ、セミリュナリス
丙 コンヂョンクチヷ、スクレロチカ

コンヨンクチヴアヘルチ

頭ヲ有セス、血管ノ分布モ、眼瞼部ノ如ク多カラス、而テ底下面ニ透見シテ、眼白（ホワイト、オフゼアイ）ヲ成セル、鞏膜ニ綫着ス。此部ニ於テハ、尋常二三ノ太キ血管ヲ呈ス、是レ眼動脈ノ枝別ニシテ、微細ノ毛細管網ヲ為ス者ナリ、蓋シ健康ノ眼球ニテハ、角膜縁ニ至リ其膜中ニ分布セスシテ終ル

甲 角膜部（コルニール、ポルシユン）ニ於テハ、血管ヲ有セス、甚タ透明ニシテ密着シ、恰モ角膜造搆ノ一部ヲ成スカ如シ

涙涕機器

オルガナラクリマリア

グランヂユラスラクリマリス

甲 涙涕機器（ラクリマル、アッパラチュス）ハ、涙腺、涙管、涙嚢、及ヒ其連續ノ涙鼻管ヨリ成ル。而テ涙腺ハ、涙涕ヲ分泌シテ、結膜ヲ滋潤シ、其剰餘ハ、通例、涙管ト涙嚢ヲ通過シテ、鼻中ニ流洩ス。然レ𪜈悲哀ノ感動ニ逢ハ此腺ノ官能、非常ニ興盛シテ、眼瞼縁ヨリ溢流ス

乙 涙腺（ラクリマル、グランド）ハ、眼窩ノ上外部ニ占據シテ、二部ヨリ成ル。其后部ノ者ハ、形狀及ヒ大サ大約扁桃核ニ類似シ、前部ノ者ハ薄フシテ、不整ノ方形ヲ為ス、而テ上面ハ凸ニシテ、眼窩蓋ニ接シ、下面

甲 ダクトス、ラクリマリス
乙 カナリキユリ、ラクリマーレス
丙 ポンクトム、ラクリマーレ
丁 パピルラ、ラクリマリス

ハ凹ニシテ、眼球ニ應ス此腺ハ、薔薇色ノ葉々ヲ有スル葡萄狀腺ニシテ大約、六七箇ノ横行セル管（甲ダクツ）ノ一列ヲ有ス、其管、前進シテ、乃チ結膜ノ上眼瞼ヨリ、眼球ニ反展スル外部ニ於テ、排泄口ヲ開ク

涙管（乙ラクリマルカナールス）ハ上下二箇ノ管ニシテ涙孔（ラクリマル、オリハイス）即チ涙點（丙ラクリマルポイントーン）ト稱スル小孔ヲ以テ涙乳頭（丁ラクリマルパピルラ）ノ尖頂ヨリ起リ、眼ノ前部ヨリ常ニ涙涕ヲ輸送ス上管ハ、上眼瞼中ニ昇リ、下管ハ、下眼瞼中ニ降リ、后チ兩管共ニ、内方ニ

甲 サッコス、ラクリマリス
乙 ダクトス、ナソ、ラクリマリス

輻輳シ、各自ニ其口ヲ以テ、涙嚢中ニ終ル此管ハ、外纎維膜ト、裡粘膜ノ二層ヨリ成リ、起后ニ膨脹ス兩管ノ中間ニ於テ、涙涕息肉ヲ挿ミ、前部ハ、眼瞼輪筋ニテ被包セラル

涙嚢（甲ラクリマルサック）ハ、涙涕ヲシテ、眼ノ前部ヨリ、鼻中ニ導洩セシムル通路ノ起端ニシテ、涙骨ト上腭骨ノ中間ニ於ケル、窩中ニ占據ス其丈ケ、大約半「インチ」其形チ、圓柱狀ヲ為シ、以テ涙管口ノ稍ヤ上方ニ突出シテ、閉鎖セル圓頂ヲ有ス

涙鼻管（乙ラクリイモ、ナサルダクト）ハ、涙骨、上腭骨、及ヒ貝殼狀

骨ヨリ成リ、其丈ケ大約半「インチ」ナリ」此管ハ、内面ニ涙嚢ノ展延ヲ以テ貼裝シ、下テ下鼻道ノ前端ニ終ル

涙嚢及ヒ涙鼻管ハ共ニ、其方向、鉛直ナレ圧、然レ下行スルニ於テ、稍々内后方ニ傾斜シ、粘膜ニテ貼裏シ、底下ノ骨膜ニ密着シ、上ハ涙管ノ粘膜ニ連リ、下ハ鼻膜ト連續ス」件ノ粘膜ハ、帯白紅色ニシテ、柱狀顫毛内皮ヲ貼裝シ、時トシテハ、一二ノ横行セル小襞ヲ有ス

眼球

甲 ボルボス、ヲキユリ

甲 眼球「アイ、ボール」ハ、眼窩ノ前部ニ占據シ、前ハ眼瞼ノ守衛ヲ受ケ、后ハ脂肪組織ト蜂窩織ニテ成レル、圓錐形枕狀体ノ凹底ニ安ンス」故ニ其位置ヲ保ツハ、彼ノ枕底ト、視神經及ヒ眼瞼トヲ以テスレ圧、専ラ眼球ヲ圍擁シ、且ツ諸方ニ運轉セシムルノ諸筋アリテ維持ス」眼球ハ、直徑殆ト一「インチ」ニシテ、略ゝ球形ナリ、然レ圧側方ヨリ視レハ、二箇ノ不全球形ヲ呈ス、其一ハ、大ニシテ鞏膜ヨリ成ル一ハ、小ニシテ角膜ヨリ成リ、即チ前方ニ突出スル者ナリ

眼球ハ、殆ト平行ノ中軸ヲ有ス、然レ𪜈分岐セル視神経ハ、其中軸ノ内側ニ於テ、両球ノ后部ヲ結合ス、故ニ角膜ノ外縁ヲ距ルヨリモ、内縁ヲ距ルヿ、数線許近邇セリ

造搆ハ、眼液（ヒユモルス、オヴ、ゼ、アイ）ト称スル、三種ノ極テ透明ニシテ無色ナル者ヲ含ミ、数層ノ膜ニテ重覆ス其液ハ、水様液、結晶連斯、及ヒ硝子液ニシテ、其膜ハ、第一鞏膜及ヒ角膜、第二脈絡膜及ヒ虹彩、第三網膜是ナリ

眼球諸筋

甲 モスキユリハ、レクチ、オキユリ
乙 モスキユリユスレクチユス、シユペリオル
丙 モスキユリユス、レクチユス、インヘリオル
丁 モスキユリユス、レクチユス、エキステルニユス
戊 モスキユリユス、レクチユス、インテルニユス
己 モスキユリユス、オブリキユス、スユペリオル、オクユリ

両眼球共ニ、四箇ノ直筋（甲）（ストライト、モスクルス）アリ、其部位ニ従テ上直筋（乙）（シユペリオル、ストライト、モスクル）下直筋（丙）（インヘリオル、ストライト、モスクル）外直筋（丁）（エキステルナル、ストライト、モスクル）及ヒ内直筋（戊）（インテルナル、ストライト、モスクル）ト称ス此諸筋ハ、腱状ヲ以テ、視神経孔ノ周圍ヨリ起リ、各々同一ノ距離ニシテ、前進且ツ分岐シ、又タ腱ト成リテ、鞏膜ノ角膜近傍部ニ至テ附着ス独リ外直筋ノ根起ノミ、二部ニ分岐シ、其中間ニ、動眼神経、眼球外転神経及ヒ眼神経ノ鼻枝ヲ通ス

又タ共ニ二箇ノ斜筋アリ、上斜筋（己）（シユペリオル、オブリキユー、モス

甲　トロコリー

乙　モスキユリユス、オブリキユース、インヘリオル、ヲキユリ

クルハ、腱狀ヲ以テ、視神經孔ノ上ヨリ起リ、眼窩ノ上内部ニ前進ス而テ圓形ノ腱ニ化シテ、上眼窩縁ノ内端ノ稍ヤ内部ノ蹙凹ニ懸ル纖維軟骨環（ハイプロカルチレヂノース、リング）即チ滑車（甲）（ポルレー）ヲ通過シ、后チ上直筋ノ下ヲ、后外方ニ廻轉シ、上直外直ノ兩筋ト、角膜及ヒ視神經ノ中央ニ於テ、眼球ニ附着ス

此腱ノ滑車ヲ通過スル部ハ、關節膜嚢ヲ以テ被包シテ容易ニ其車上ヲ滑動セシム

（乙）下斜筋（インヘリオル、オブリキュー、モスクル）ハ、眼窩ノ下縁内、直チニ淚窩ノ外方ニ於テ、上腭骨ヨリ起ル此筋ハ、下直筋ノ下ヲ、外后方ニ進ミ、眼球ノ外部中央ノ稍ヤ后ニ附着ス

上直下直兩筋ノ作用ハ、眼球ヲ上引シ、或ハ下引シ、外直筋ノ作用ハ外方、内直筋ハ内方ニ運轉セシム故ニ兩眼上ニ於テ上下ノ直筋ハ、同式ニ收縮スレ𪜈、内外ノ直筋ハ反對ニ收縮ス、即チ一眼ノ外直筋ハ、必ス他眼ノ内直筋ト相共ニスルナリ

斜筋ハ、直筋ニ相反シテ、眼球ヲ前進セシム而テ上下ノ兩斜筋ハ各〻反對ノ方向ヲ以テ、眼球ヲ其軸上ニ自轉セシム

諸直筋ハ、合協シテ収縮スル𪜈ハ、眼球ヲ眼窩底ニ沈ソ斜筋ハ、稍ヤ相反スル者ナリ

鞏膜

甲鞏膜スクレロチック、コート、ハ、眼球外壁ノ后部、五分ノ四ヲ形成ス」其造構、纖維組織ノ交錯セル小束ヨリシ、強剛且ツ白色ノ延長性無キ、不透明膜ニシテ、眼球ニ賦與スルニ、其形狀ト固性トヲ以テス、其結膜下ニ透見スル前部ハ、尋常之ヲ乙眼白ホワイト、オズ、ゼ、アノイト稱シ、后部最モ厚ク、前部進テ直筋及ヒ斜筋ノ腱ノ附着部ニ至ルニ從テ、漸次ニ薄變ス」后部ニ於テ、漏斗狀ノ一孔アリ、視神經ヲ通シ、爰ニ其莢膜遊離シ以テ、此膜ニ連合ス」又タ前部ニ於テ、環狀ノ一孔アリ、角膜ヲ函入ス其形式、恰モ硝子ヲ以テ、袖珍時儀ノ蓋ト為スカ如シ、此孔縁ハ、内方ニ斜切形ヲ成シ、角膜ノ同形縁ニ適合ス

此膜ハ、視神經ノ近傍ト、角膜ノ近接部ニ於テ、毛樣血管ト、神經ヲ穿通ス」而テ内面ハ、褐色ヲ帶ヒ、僅少ノ軟弱ナル結締組織ヲ以テ、脉絡膜ニ附着ス」

此膜ハ、毛樣動脉ノ諸支ヨリ榮養ス、其靜脉ハ、脉絡膜ノ靜脉ト、毛樣靜脉ニ結合ス

甲メンブラナコル子ア、

乙カプシュル、ヒュモリス、アクエイ、

角膜

角膜ハ、眼球ノ前部ニ於ケル透明ナル膜ニシテ、球ノ外壁ノ五分ノ一ヲ形成シテ最モ突出ス其縁ハ斜切形ニシテ、鞏膜ノ環状孔中ニ適入ス外部ニ於テハ、結膜、此膜面ニ反展シ、内部ニ於テハ、水様液膜メンブレーン、オフ、ゼ、アキュース、ヒューモルト稱スル、透明ノ層ヲ以テ貼裏ス其内外二層ノ他、此膜ノ真質ハ、纖維組織ヨリ成リ、其外看ト、化學的成形ニ於テハ屡〻軟骨母ニ顯ハル、所ノ組織ニ類似ス此纖維組織ハ、數層重複ス、故ニ手術ノ精粗ニ従

甲カナリススクレミ

乙ゲロントキソン

テ、多少數層ニ剥離スルヲ得ヘシ鞏角二膜ノ連合部ハ、甚タ密接セリ、其中間ニ虹彩環状竇シルキュラル、シニス、オフ、ゼ、アイリスト稱スル静脈溝ヲ函入ス

角膜ハ、健康ノ日ニ在テハ、血管ヲ有セス、恰モ骨溝ノ如キ、枝別アル一系管ヲ具ヘ、以テ此膜質ニ無色ノ榮養液ヲ送ル、此膜ハ、毛様神經ノ枝別、其細微ノ纖維ヲ分布ス

老年ニ至レハ、角膜周圍ノ組織中ニ脂肪質ノ沈着スルヲ以テ、多少曇暗ヲ呈ス、是所謂老眼穹アルクス、セニリスヲ成ス者ナリ

甲 メンブラナ、コロイデア
乙 ムスクリュス、シリアリス

脉絡膜

脉絡膜（甲 コロイデア）ハ、黒色ノ薄キ血管膜ニシテ、鞏膜内ニ列シ、以テ鞏膜ト、網膜ヲ分隔ス。后部ニハ視神經ノ通孔ヲ有シ、前部ハ、毛様筋及ヒ毛様体ニ終ル。外面ハ帯褐黒色ニシテ、軟弱ナル結組織ト、血管ヲ以テ、鞏膜ニ附着ス、其附着前方ハ幾裕ニシテ、后方ハ甚タ密ナリ。内面ハ、滑澤ニシテ光輝アリ、極メテ黒色ヲ呈ハシ、單ニ網膜ノ隣接面ト觸接ス

毛様筋（乙 モスクルシリアリ）ハ、一箇ノ白帯ナリ、脉絡膜ノ前部ヲシテ虹彩ノ周圍ト鞏角ニ膜ノ連接部ニ結合セシム。此筋ハ、蒼白無紋ノ筋纖維ヨリ成リ、饒多ノ神經及ヒ血管ヲ受ケリ

甲 コルピュス、シリアリ、
乙 プロセッシュス、シリアリス、
丙 プリカ、シリアリス

此膜ハ、毛様筋部ノ内ニ於テ所謂毛様体（甲 シリアリ、ポデー）ヲ成ス。前部ハ毛様突起（乙 シリアリ、プロセッス）ト稱スル、大約六十箇許ノ輻輳スル襞（丙 ホルツ）ヲ形成シテ放射ス、此襞、網膜ノ前端ニ當テ硝子液ノ同形ノ溝中ニ挿入シ以テ其位置ヲ保持ス。而テ襞ノ前端ハ、遊離シテ、虹彩ノ后ロニ懸リ、眼球后室ノ水様液中ニ浸蘸ス

（甲）チユーデカバスクユロサバルレリ、
（乙）ハーサボルチコサ

造構ハ、色素層ヲ以テ、貼裏スル、血管板ヨリ成ル
血管板（甲）（ハスクラルラミナ）ハ、紡錘及ヒ星芒狀「セル」ノ實質
中ニ、混合セシ、血管ヨリ成リ、其質ハ結締組織ノ
初基ニ他ナラス「ス」此板ノ動脈支ハ、短毛様動脈ヨ
リ分來シ、先ツ視神經ノ近傍ニ於テ、鞏膜ヲ穿通
シ、爾后數回枝別シテ、終ニ微細ノ毛細管網ヲ成
爲ス、此網ヨリ出ル靜脈ハ、板ノ外部ニ於テ顯著
ナル複雜蔟ヲ造ル蓋シ其迂廻スル一種ノ形狀
ニ由テ、之ヲ盤渦靜脈（乙）（ボルチコサ ピセルス）ト稱ス、然ル后
千四箇ノ聚蔟ト爲リ、曲線ヲ畫シテ、四箇ノ同一

（甲）ストラチユヘピグメンチ夫

ニ相距離スル幹ニ輻輳ス、其幹ハ視神經及ヒ角
膜ノ中央ニ於テ、鞏膜ヲ穿チ、眼靜脈ニ終ル
毛様突起ハ、血管ニ富ム了脈絡膜ノ他部ニ於ル
如ク、而テ其他部ヨリ、此部ニ進入セル動脈ハ、迂
曲且ツ合吻シテ、靜脈ニ終ル、是レ反行シテ盤渦
靜脈ニ結合スルナリ毛様筋ハ短及ヒ前毛様動
脉ノ末支ニテ榮養ス
內面ノ色素層（甲）（ピグメンタレ ト、レーエル）ハ、毛様突起ヲ被包
ス、此層ハ、帶褐黑色ノ顆粒ヲ含メル、扁平六角ノ
有核「セル」ヨリ成リ、其「セル」此膜ニ黑色ヲ賦與「ス」

甲 マンブラナ、ベルシコロル
乙 チユニカ、コルユレー

白晳人種ニ於テハ、件ノ色素、顆粒質ヲ有セス、而テ其血管ニ富饒スルヲ以テ、紅色ヲ呈セリ

許多ノ下等動物ニ於テハ、内面ノ后部ニ、輝點(甲)タペチユムト稱スル一部アリ、以テ礦色ノ光輝ヲ放ツ、而テ此部ニ於テハ尋常ノ黒色素質、無色ノ顆粒ニ代リ、爰ニ落ツル所ノ光線ヲ反射シ、乃チ其眼球ヲシテ、暗所ニ輝カシム、是レ蒙說家ノ言ヘル、許多ノ恐愕ノ根原ナリ

虹彩

虹彩(甲)アイリスハ、扁圓ニシテ、中心孔ヲ有シ、其固有ノ縮張力ヲ具ルヲ以テ、網膜ニ受ル所ノ光線ノ度ヲ主宰ス「ヒ」毛様筋ノ前縁ニ附着シ、直立シテ、水様液中ニ浸蘸ス「ヒ」前面ハ、二箇ノ環狀ニ別レ、尋常其外環ヲ廣シトス、而テ周圍ヨリ、中心孔ニ向テ、線狀ヲ呈ハシ、人ニ由テ、種々ノ色彩ヲ異ニス、乃チ灰白色、藍色、褐色、黒色ニ至ル、后面ハ、極メテ黒色ナリ、是レ脉絡膜ニ於ケル如ク、色素「セル」層ノ存スルニ坐セリ

件ノ中心孔ヲ瞳孔(甲)ピユピルト稱ス、其式、環狀ヲ呈シ、生活眼ニ在テハ、其外看、恰モ黒點ノ如シ、此孔ハ、

甲 ピユピラ、

光ノ感シニ由テ縮小シ、其減小スル𪜈ハ張大スルナリ」構造ハ、纎維様ノ筋ニシテ、血管ニ冨饒シ、其面、内皮ニテ被覆ス」此内皮ノ后層ハ、黒色素「セル」ヨリ成リ、前層ハ、無色ノ甎石狀「セル」ヨリ成ル」筋纎維ハ、無紋ニシテ、瞳孔ノ周緣ニ在テ、環狀層ヲ爲シ虹彩ノ周圍部ノ方ニ線狀ニ放射ス

血液ハ、長及ヒ前毛様動脈ヨリ來ル、而テ長毛様動脈ハ、二條ニシテ、即チ各側ニ於テ鞏膜ノ后部ヲ穿チ、脉絡膜ノ外面ヲ進ミ、毛様筋ニ至リ、共ニ分岐シテ、動脉環ヲ造リ、後チ無數ノ枝別ヲ生シ

一 ヲ有ス求ノタ大、

テ、爰ニ前進ス」前毛様動脉ハ、其數、大約六七許ニシテ、角膜ノ近傍ニ於テ、鞏膜ヲ穿チ前脉ノ諸枝ト合吻シ、而テ后チ毛細管ニ終ル、是ヨリ生スル靜脉ハ、鞏角二膜ト、毛様筋ノ結合部ニ於ケル「甲環狀竇」シルクュラルシニュスニ連合ス、而テ此竇ヨリ出ツル靜脉ハ、前毛様動脉ト同行シテ、眼靜脉ニ終ル

神經ハ、數多ニシテ、毛様神經ヨリ分來シ、鞏膜ノ后部ヲ穿チ、眼球中ニ入リ、脉絡膜ノ外面ヲ進ミ毛様筋ニ達シテ、叢ヲ造リ、以テ爰ニ分布ス

胎兒ノ瞳孔ハ、赤タ第八ケ月ニ至ラサルノ前ハ

メンブラナ、ピユピルリス

乙レチナ

瞳孔膜「ピユピルラレ、メンブレーン」ト稱スル、柔弱ノ膜ヲ以テ閉鎖ス、是レ恐クハ、虹彩ニ連續スル血管ヨリ造搆スルナラン、然レヒ分娩ノ期ニ至テハ悉ク消滅セリ

網膜

網膜「レチナ」ハ、柔軟無色、殆ト透明ニシテ、視神經ヨリ、脉絡膜ノ内面ニ展延シ、毛樣体ニ至テ、波狀緣ニ終ル」死後ニ於テハ、甚タ其透明ヲ失ヒ「グラウシド」硝子ノ肴ヲ為ス

此膜ノ面ハ、近傍ノ搆造ト單ニ觸接シ唯タ其極テ鮮活ノ者ノミ滑澤ナリ」而テ死后暫時ハ、内面ニ、小襞ヲ呈ハシ、視神經入點ヨリ起テ、稍ヤ外方ニ展延ス、又タ此襞ノ頂端即チ眼球ノ軸ニ當テ、黃斑「エルロー、スポット」アリ、其中心ノ處膜薄クシテ假孔ヲ生ス」視神經入點ハ、暗白點ヲ呈ハシ、其中點ヨリ、中心網膜動脉ノ諸枝ヲ分散ス

甲マキユラリユテー

造搆ハ、數層ノ原質ヨリ成リ、甚タ複雜ス、之ヲ外方ヨリ、次第ニ枚舉スレハ、乃チ第一竿狀「セル」層第二顆粒狀層、第三有尾神經「セル」層、第四視神經ノ展延ヨリ來レル神經纖維、第五無組織界膜是

甲 ヒユーモル、アコシユス

ナリ
中心網膜動脈ヨリ分來スル血管ハ、網膜ノ神經層中ニ於テ、毛細管網ヲ造爲ス、是ヨリ出ツル靜脉ハ此動脉ノ道路ヲ反行ス
網膜ハ、眼球ノ知覺膜ナリ、以テ光輝ノ感應ト外物ノ形狀、及ヒ色彩ヲ弁識スル者ナリ

水樣液

水樣液(甲)（アキユース、ヒユーモル）ハ、無色透明ノ蛋白樣液ニシテ、角膜ト、結晶連斷ノ間隙ヲ充塡ス、其間隙ハ、虹彩ニ由テ前室（アンテリオル、チヤンブル）后室（ポステリオル、チヤンブル）ノ二部ニ分界ス、而テ前室ハ、後室ニ比スレハ巨大ナリ、虹彩ハ、水樣液中ニ遊懸シ、其兩面ハ、毛樣突起ト共ニ、此液中ニ浸醮ス
爰ニ所謂水樣液膜(甲)（メンブレーン、ヲヴ、ゼ、アキユース、ヒユーモル）アリ、角膜ノ内面ヲ貼裏シ、虹彩ノ前層ニ連合ス、此膜ハ、彈力性有テ、無組織基膜層ト、磚石狀内皮ヨリ成リ、其縁鬆粗ナル微細ノ網狀纖維ニ分解シ、虹彩ノ前面ニ反展シテ、爰ニ連合ス

甲 メンブラチデセメツト、
乙 レンス、キリスタルリナ、

結晶連斷

結晶連斷(乙)（キリスタルリン、レンス）ハ、水樣液ノ后部ニ占位シ、

眼液中最モ其固性ヲ有スル者ナリ」形式ハ、兩面凸隆連斯ニシテ、后面ハ、前面ヨリモ尚オ凸隆シ、硝子液ノ脛凹中ニ入リ、前面ハ、水様液中ニ浸漑ス」而テ其位置ヲ保持スルニ、巳レノ縁ヨリ、前後兩面ニ、展延スル硝子膜ヲ以テス」件ノ凸隆、胎兒ヨリ大人期ニ至ルマテ、漸次ニ減却シ、其後モ尚オ年齢ノ逆進ニ随テ、常ニ然リ

連斯ハ、極メテ透明無色ナリ、然レ圧老年期ニ至レハ、稀黄色ヲ帯フ」沸湯及ヒ亜爾箇爾ハ之ヲ凝結セシメ、硬固ナル暗白色ノ物ト成スナリ

甲 カプシュルレンシス、

連斯ハ、透明膜様ノ囊甲（カプシュル）中ニ包裡セラル、其囊ハ、無組織ニシテ、前部最モ厚シ

實質ハ、内位ニ向テ聚合スル、數層ノ板ヨリ成リ中心ニ近ツクニ随テ、愈緻密ト爲ル」其板ハ、六角形ノ纖維、收縮シ、側面ヲ以テ、互ニ密着シテ成ル」而テ魚類ニ於テハ、此收縮、甚タ強久鋸齒狀ヲ爲シテ交御ス

連斯ハ解剖スレハ、屢〻其中軸ヨリ、片〻ニ剥離ス可キ性ヲ呈ハシ、以テ構造ヲ示ス」其片〻ハ所謂中心ニ聚合スル板ニシテ、毎片ノ底部ヨリ其尖

甲 コルピユス、バイトレユス、

頂ト側縁ニ向テ進ミ、又タ片ト片ノ間隙ハ、無形質ト微細ノ顆粒質ノ混合物ヲ以テ充盈ス連斯ノ前面ト彼ノ嚢トノ中間ニ、軟弱ナル内皮「セル」アリ、是レ死后ニ於テハ、剥離シテ、近傍ノ造搆ヨリ、滲漏セル液類ニ混ス、胎兒ニ於テハ、中心網膜動脉ヨリ、枝別セル血管、硝子液ノ中軸ヲ進ミ、嚢ニ分布ス然レ𪜈、分娩ニ先タツテ全ク消滅ス

硝子液

消子液(甲)（バイトロース、ヒユーモル）ハ、其固性、結晶連斯ニ劣レ𪜈、遥カニ水様液ニ勝リ、亦タ無色ニシテ透明ナ

甲 [illegible]ヒアロイ、デー

乙 ゾナ、シリアリス、

リ」此液ハ粘滑ノ蛋白様ノ者ニシテ、網膜ト、毛様体ノ間隙ヲ充填シ、硝子膜(甲)（ヒアロイド、メンブレーン）ト稱スル、軟弱ナル膜様造搆ノ網眼中ニ入ル」其膜ハ、無組織ニシテ、硝子液中ヲ分隔シ、且ツ其外袍ヲ成シ、網膜ノ前端ニ當テ最モ厚ク、而テ毛様帯(乙)（シリアリーソン）ヲ成ス」其帯、外部ニ於テハ、毛様体ニ觸レ、毛様突起ノ爲メニ壓凹ヲ爲シ、以テ其凸起ヲ受容シ、硝子液ノ位置ヲ補保ス」前部ニ於テハ硝子膜、二板ニ裂テ、結晶連斯ノ縁上ニ分岐シテ展延シ、其嚢ノ前后二面ト抱合ス、彼ノ二板ニ裂ケル、角

度ノ空間ハ不全ニ數區ヲ為ス故ニ吹テ膨脹セシムレハ連斯ノ周圍ニ念珠狀ノ管ヲ呈ハスヘシ

解剖訓蒙巻之十九終